

義とされること:神の友

OICの皆さん、おはようございます。

パウロはローマの信徒への手紙の中で、クリスチャンが受けた安全な立場を定義するために、多くの説明と教えを与えています。イエス・キリストの贖罪、つまり赦しを買うための血のいけにえを信じたとき、クリスチャンはこの安全な立場を得たのです。さて、パウロは、信徒が、もはや罪人としてではなく、義とされた聖人として、さらに言えば、神の友として、自分の人生を生きていく中で、義認の結果を明らかにします。

R. ローマ 5.11 イエスは（ヨハネ 15.15）で“わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。”と言われました。

今、私たちは、御父がイエスに語られたことすべてを個人的に聞いた経験はありませんが、最初の使徒たちに語られたことはすべて、キリスト教の聖書の中で私たちに語られているのです。そして、彼らが語られた以上のことが語られています。聖霊は、キリスト教の聖書に新約聖書の黙示録（ギリシャ語で「時の終わりの書」を意味するアポカリプシス）さえも語られました。

キリストを信じたばかりの信者の多くは、多くの驚きを経験します。 オックスフォード英語辞典（OXF）は、驚きを次のように定義している：美しいもの、驚くべきもの、または類似したものによって引き起こされる驚きと賞賛の感情：畏敬の念、魅了、驚愕。 驚きに満ちていること、あるいは素晴らしいことは、イエスを通しての神との新しい関係を表しているます。

イエスはまた、（マタイ 11.27）“すべてのことが、わたしの父からわたしに渡されています。父のほかに子を知っている者はなく、子と、子が父を現そうと心に定めた者のほかに、父を知っている者はだれもいません。”と言われました。

要点#1

生まれ変わったクリスチャンになったときの驚きは、決して色あせない。しかし、もし色あせたとしても、イエスに従うことによって、御言葉と御霊から新たな体験がもたらされ、神との関係に新たな驚きもたらされるのです。イエスに従うことは決して退屈な人生ではないと、私は、聖書や私の人生、そしてクリスチャンの友人たちから言えるでしょう。

アダムとキリストの対比

v. 12 節 アダムが罪を犯したとき、罪が世に入りました。アダムの罪は死をもたらし、死はすべての人に広がったのです。聖書は、罪と死が世界に入る（創世記 2. 16-17）と述べています。 16 しかし、主なる神は彼に警告されました、「園にあるすべての木の実を自由に食べてもよい。 17 知識の木を除く。 善悪。 その実を食べると必ず死ぬ。」 アダムとイブは二人とも、直接かつ意図的に神に反抗してその木の実を食べました。

お気づきかもしれないが、旧約聖書では神がしばしば「主なる神」と呼ばれることについて説明しなければならない。ヘブライ語では通常、神の名をヤハウエ・エロヒム、つまり主なる神と書く。神を人に完全に現された最初の方であるイエスは、（ヨハネ 10. 30）でこう言われた。**わたしと父とは一つである。**{唯一の神である。} 彼は（マタイ 28. 19）で述べたように、三位一体の第三位格である聖霊について教えました。だから、行って、すべての国の人々を弟子とし、父と子と聖霊の名によってバプテスマを授けなさい。このようにイエスは、神を三位一体として明らかにされた：父、子、聖霊でありながら、唯一の神なのです。それゆえ、キリスト教徒は神を祝福された三位一体と呼ぶようになりました。ほとんどの現代聖書は、旧約聖書の文字通りのヘブライ語であるヤハウエ・エロヒムを**主なる神**と訳している。これは、旧約聖書におけるアブラハム、イサク、ヤコブの神であり、イエスの父である三位一体の神、あるいはシンプルに**神**である。

エバに対する呪いが神によって宣言された後、神はさらに呪いをアダムに語られた。

創世記 3:19-20

19 お前は顔に汗を流してパンを得る

土に返るときまで。

お前がそこから取られた土に。

塵にすぎないお前は塵に返る。」

20 アダムは女をエバ（命）と名付けた。彼女がすべて命あるものの母となったからである。

しかし、主なる神はアダムに死の呪いを警告された（創世記 2:16）

16 神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

神の啓示と預言者たちによる将来のメッセージは、死が肉体的なものであると同時に霊的なものであり、神から永遠に引き離されるものであることを明らかにしました。アダムとエバはこの時、創造主から引き離されたと感じ、肉体的に園から追い出されることで、その霊的な分離を思い知らされました。

創世記 3:23

23 神である主は、人をエデンの園から追い出し、人が自分が取り出された大地を耕すようにされた。

アダムとエバの背きによって罪がこの世に生まれてから、肉体的な死はまだ犠牲者を出していなかった。園の後、死はいわゆる自然死となった。罪を犯す前の人間に対する神の天命は、この園から始まる永遠の命であったことを忘れてはならない。人が死ぬ前に、神はアダムとエバに憐れみを示すために「死」を用いられた。アダムとエバに服を着せるために動物を殺した神は、生贄の子羊であるイエスによって人類の永遠の命を贖う計画があることを宣言したのです。

21 神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。物理的な蛇に対する神の呪いは、霊的な蛇の頭を砕くためのイエスの犠牲についても預言的でした。エデンの園で動物の蛇に取り憑いていたのはサタンでした。聖書にはこうあります。

創世記 3. 14

14 神である主は蛇に言われた。「おまえは、このようなことをしたので、どんな家畜よりも、どんな野の生き物よりもろわれる。おまえは腹這いで動き回り、一生、ちりを食べることになる。

15 わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」

15 節と 16 節を繰り返すのは、欽定訳聖句の方が「女の種」の意味をよく捉えているからである――。

15 わたしは恨みをおく、／おまえと女とのあいだに、／おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、／おまえは彼のかかとを砕くであろう」。

16 つぎに女に言われた、／「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、／彼はあなたを治めるであろう」。
(AKJV)

通常、蛇を嫌うのは男性よりも女性の方が自然かもしれませんが、これは女の種、処女マリアから生まれたイエス・キリストに対する神の約束でなのです。女性は本来種を持たないので、聖霊によって妊娠したことを私たちは覚えています。

要点 2

聖書は、この世の知恵がどうあれ、私たちの最終的な権威であること。しかし、科学者がしばしば自然界に真理を求めるという事実が、ヘビの骨の構造にはかつて足があったという結論に導きました。それは進化ではなく、サタンとサタンが所有していた動物に対する神の呪いだった。クリスチャンは、聖書に答えを求め、聖霊の確認に耳を傾けることなく、科学を恐れてはならないし、科学を信じてはならない。ほとんどの現代社会は、科学を“神”として信頼することに重大な誤りを犯しているのです。

使徒パウロは、教会を含むユダヤ人とキリスト教徒の大都市ローマで演説していました。彼は、ユダヤ人が創世記を知っていることを知っていました。彼はまた、何年もの間、多くの異邦人が神を求めてユダヤ教の会堂に通っていたことも知っていました。西暦 55 年当時には、今日の世界の主要都市よりも、多くの人々が旧約聖書の聖典から人類の滅亡の詳細を知っていたと私は予想しています。私の簡潔な説明によって、パウロが人類の両親であるアダムとエバを、人類の救い主であるイエスに比較したことを皆さんが理解できることを祈ります。

ローマ 5:13

実に、律法が与えられる以前にも、罪は世にあったのですが、律法がなければ罪は罪として認められないのです。

これは理解するのが難しい概念や教えです。 *The Expositors Bible Commentary* (EBC) から私の気に入った要約を引用します。人類は、アダムが持っている、違反したのと同じような神からの責めを負っていませんでした。死は罪の結果です。ここでいう罪とはアダムの罪であり、アダムの子孫すべてを巻き込んだものなのです。

私たちが理解できるかどうかに関係なく、聖書は神の言葉です。 イエス・キリストの福音は 3 歳児でも理解できますが、それでもこれらの聖句の主要なテーマと聖書全体はパウロによって教えられています (ローマ人への手紙 5 章 17 節、以下)。

聖書の他の多くの真理は理解するのが難しいですが、それにもかかわらず、それは神の言葉... 真実です。

律法が与えられる前に、罪深い人間が死後にどのような審判を受けるかという問題は、ローマ人への手紙では明らかではありません。

このローマ人への手紙の中で、私たちが聖書の中で理解できないことについて熟考したり黙想したりするのは、この場所がふさわしいように思われます。神が書かれたとおり、神はすべてを理解されているのです。 私が選んだ聖書の助けは、旧約聖書の中で、アブラハムがソドムに住む甥に憐れみを示そうと主と論争した歴史的な出来事からです。主は二人の天使を連れてアブラハムを訪れ、アブラハムに言われた。

(創世記 18:21) 「わたしは下って行って、わたしに届いた叫びどおり、彼らが滅ぼし尽くされるべきかどうかを、見て確かめたい。」

アブラハムは、二人の天使がソドムに対する神の裁きとして、完全な滅亡を意味していることを悟りました。彼は謙遜に、しかし友と友として説得する自由を持ちながら、もし神が 10 人でも正しい人を見いだされるなら、裁きを保留するよう主を説得したのです。彼の説得には次のようなものがありました。

(創世記 18.25) : 全地をさばくお方は、公正を行うべきではありませんか。

イエスは私たちを友と呼んでおられるので、アブラハムのように、私たちが神の友として祈ることができます。

(創世記 18.32) すると言われた。「滅ぼしはしない。その十人のゆえに。」

要点 3

聖書の中で私たちが理解できないことは、神が書かれた通りに理解される。旧約聖書では、アブラハムがどのように説得力をもって論じたかを見ています。

(創世記 18. 25) : 全地をさばくお方は、公正を行うべきではありませんか。

イエスは私たちが友と呼んでおられるので、アブラハムのように、私たちが神の友として祈ることができるのです。しかし、私たちは、はっきりとは理解できないことであっても、神の憐れみ深く公正な御性質を信頼し、神の最終決定を受け入れなければなりません。

律法が与えられる前に亡くなった人たち、あるいは私たちの家族のように私たちより先に亡くなった人たちに関して、私たち全員に警告の言葉を贈ります。私たちの責任は明確です。私たちの死後、私たち一人ひとりが神の御座でイエス・キリストの前に立ち、神の裁きを受けるのです。私たちの隣に立って神に弁明する親族はいません。クリスチャンは今も、そしてその時もイエスとともに立ちます。信仰によって義とされた私たちの永遠の安全は決まっているのです。

v. 14 けれども死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々さえも、支配しました。アダムは来たるべき方のひな型です。

使徒パウロがコリントの教会で次のように教えています。

I コリント 15:22

アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。

私たちクリスチャンは二重国籍を持っているようなものです。私たちの罪は赦されていますが、地上で罪を犯したので、私たちは死にます。私たちの国籍は 1) 死がまだ支配している国、アダム王がいる地球、そして 2) イエス王のいる誰も死なない天国。死が私たちを、アダム王の影響下にある地球上の最初の市民権から強制的に追い出すとき、私たちは、私たちの王であるイエスによって、天国で市民として認められるために卒業します。私たちの真の王であるイエスは、私たちの心の王であり、私たちの人生の主であり、私たちに地上での栄光とともに一時的な豊かな人生を与えてくださるのです。しかし、私たちが私たちの王イエスを見るとき... **死の死**と栄光は永遠に続きます。

v14b アダムは来たるべき方のひな型です。

アダムがキリストのひな型であるというのは奇妙に聞こえます。パウロが言いたいのは、最初に罪を犯したアダムは、その行為によって全人類に影響を及ぼしたということです。罪を犯さなかったキリストも同様に、その行為によって全人類に影響を与えました。ローマ人への手紙 5. 15 は、この二人の人間が全世界に及ぼした影響を明らかにしています。

v 15 しかし、恵みの賜物は違反の場合と違います。もし一人の違反によって多くの人が死んだのなら、神の恵みと、一人の人イエス・キリストの恵みによる賜物は、**なおいっそう、多くの人に満ちあふれるのです。**

ここ日本では、基本的にキリストが伝えられていないため、イエスを信じた何十億もの人々がすでに天国にいることを忘れがちです。私たちが野球で阪神タイガースを応援するように、彼らは私たちの勝利を応援してくれているのです。したがって、私たちは信仰生活を証しする大勢の群衆に囲まれているので、私たちが遅らせるあらゆる重荷、特に私たちが簡単につまずかせる罪を取り除きましょう。ヘブル 12.1

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。

その大きな違いは、**v 16** 節に数学的に見ることができる。

v 16 また賜物は、一人の人が罪を犯した結果とは違います。さばきの場合は、一つの違反から不義に定められましたが、恵みの場合は、多くの違反が神のまえで義と認められるからです。

天国には、すでに罪が赦された人々が何十億人もいます。神の**唯一の贈り物**、イエスから。私たちが神の友とするこの義認の深さと広さ。このことは、パウロの雄弁な言葉の中で強調されています。

ローマ 5. 17-18 を読みましょう。

v 17 もしひとりの違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりのイエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです。

v 18 こういうわけで、ちょうどアダムの一つの違反によってすべての人が不義に定められたのと同様に、一人の義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられます。

2 つの市民権と 2 人の王という私の例えは、つまり、{王} アダムが 1 つの罪によって、多くの {罪を犯した彼の国民} を死が支配する原因となったことに当てはまります。しかし、王イエスは、たった一つの義の行為 (十字架) によって、その国民 (教会) に義の賜物、罪と死への勝利、神との正しい関係、そして新しい命をもたらすことを今統治しています。神との正しい関係においては、「神は私たちが友と呼んでくださいます」。それで、使徒ヨハネが (1 ヨハネ 1. 3) で書いたことを思い出すことができます。そして私たちの交わりは御父とその御子イエス・キリストとのものです。

ローマ人への手紙 5 章から 6 章にかけての正しい強調点は、神が御子イエスの賜物によって、罪の代償として過大な補償をしてくださったという輝かしい事実です。パウロは、この栄光の結論を次のように繰り返し、要約しています。

v. 19 すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです。

v. 20 律法が入って来たのは、違反が増し加わるためでした。しかし、罪の増し加わる場所に、恵みも満ちあふれました。

ここでパウロは聖霊に導かれ、人に罪を確信させるという律法の目的を賢く示しています。律法は罪人を救うことはできなかったが、人々に救い主を必要とさせる道具でした。そしてパウロは、神がその素晴らしい恵み、すなわち報われない好意を倍加することによって、より罪深い人類にどのように応えられたかを示すのです。こうして神は、罪人がイエスの福音を信じる機会を持てるように、罪人に対して罪を数えなかったのです。

v. 21 それは、罪が死によって支配したように、恵みもまた義によって支配して、私たちの主イエス・キリストにより永遠のいのちに導くためなのです。

罪の力は打ち砕かれた

神の素晴らしい恵みから「栄光の祝福を受ける」ことができるのは、今述べたように信者だけであることを忘れてはならないのです。しかし、無条件の愛（ギリシャ語のアガペー）には、第一に、信仰の賜物を受け入れること、第二に、神を喜ばせるために生きる真摯な努力をすること、という条件があります。

ローマ 6.1 それでは、どのように言うべきでしょうか。恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。

2 決してそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるのでしょうか。

すべての罪、特に意図的な罪や故意の罪を、イエスの恵みの支配下にある市民は軽んじてはいけません。パウロは以前にも、罪を重ねることによって、神の恵みのゆえに神にもっと栄光を帰そうとする矛盾や歪んだ考えを取り上げています。

ローマ 3.7 では、もし私の偽りによって神の真理がますます明らかにされて、神の栄光となるのなら、どうして私はなおも罪人としてさばかれるのですか。

その人はローマ 6.1 で再びその誤りを繰り返している。

6.1 それでは、どのように言うべきでしょうか。恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。

しかし今、パウロは神を知るための正しい神学、あるいは真実のための新しい概念を紹介しています。ローマ 3.8) においてパウロは、罪やサタンの嘘を軽んじる誤りを犯し続ける人々に対する断罪の危険性を述べていました。

ローマ 3:8 「善をもたらすために悪を行おう」ということになりませんか。私たちがそう言っていると、ある者たちから中傷されています。そのように中傷する者たちが、さばきを受けるのは当然です。

パウロは今、罪との戦いにおいてクリスチャンの日常生活を助ける、罪に対して死んだという新しい概念をもたらしました。

ローマ 6.2 決してそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるのでしょうか。

これはクリスチャンの古い性質に対する大きな武器です。古い性質が私たちの心の中で騒ぐとき、私たちはそれに従う必要はありません。聖霊は、私たちが罪に対して死んだと

信じることを可能にしてくださるのです。したがって、どうすれば私たちはそこに住み続けることができるのでしょうか

今、パウロは、教会の儀式としての水のバプテスマの重要性を宣言し、明らかにしています。それは単なる儀式ではなく、私たちがイエスの名によって水のバプテスマを受けるとき、イエスとともに十字架上で私たちの死を宣言した神を受け入れることを選んだことを、神、悪魔、世界、そして最も重要なこととして私たち自身に宣言するものだからです。

(ローマ 6. 3-4) **3** それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。

4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。

私たちがイエスに従って死に向かうとき、神はその力をもって私たちとともに立ってください。これは、生まれ変わる結果の一部ではあるが、古い自分に死ぬこと以上のものです。それは、自分自身の力だけで、何一つ良いことのない人生を送ることができる自分自身に完全に見切りをつけることができます。私たちは、主の十字架と、私たちの人生を力づけ導いてくださるために今生きておられる主に全面的に依存することを宣言するのです。水のバプテスマを拒否することは、神と世界に対する完全なコミットメントに満たない何かを伝えることとなります。これがなければ、クリスチャンの人生は、自分自身と周囲の世界に対して霊的にかすんでしまうのです。水のバプテスマは、キリストの死によってキリストと結ばれ、神が私たちの人生にはっきりと働きかけ、キリストと力を合わせて新しい人生を歩むことを受け入れるものです。

キリストを墓からよみがえらせたのと同じ聖霊の力は、私たちを地上での聖なる生活へと導き続け、最後にはイエスとともに天国へと帰させます。

要点 1

生まれ変わったクリスチャンになったときの驚きは、決して色あせることはない。しかし、もし色あせたとしても、イエスに従うことによって、御言葉と御霊から新たな体験がもたらされ、神との関係に新たな驚きをもたらされる。イエスに従うことは決して退屈な人生ではないと、私は聖書や私の人生、そしてクリスチャンの友人たちから言える。

要点 2

聖書は、この世の知恵がどうあれ、私たちの最終的な権威である。しかし、科学者がしばしば自然界に真理を求めるという事実が、ヘビの骨の構造にはかつて足があったという結論に導いた。それは進化ではなく、サタンとサタンが所有していた動物に対する神の呪いだった。クリスチャンは、聖書に答えを求め、聖霊の確認に耳を傾けることなく、科学

を恐れてはならないし、科学を信じてはならない。ほとんどの現代社会は、科学を“神”として信頼することに重大な誤りを犯している。

要点 3

私たちが聖書で理解できないことは、神が書かれたとおりに理解されている。旧約聖書では、アブラハムの説得力のある言い分として、創世記 18. 25 にこう書かれている：「全地をさばくお方は、公正を行うべきではありませんか。」

イエスは私たちが友と呼んでおられるので、アブラハムのように、私たちも神の友として祈ることができる。しかし、私たちは、はっきりとは理解できないことであっても、神の憐れみ深く公正な御性質を信頼し、神の最終決定を受け入れなければならない。

賛美チームは、伝統的なイースターの賛美歌「He Arose」を歌います。主は毎日生きておられるのだから、クリスチャンにとっては毎日が復活の日なのです。

.....

祈りましょう。

参考文献

AKJV - 認定 (キング ジェームス) バージョン KJV は、英国のクラウンの特許権者である Cambridge University Press の許可を得て複製されています。

EBC - 解説者による聖書注釈 (要約版): 新約聖書

著作権 2004

OED - オックスフォード英語辞典、オックスフォード大学出版局

NLT - 聖書、ニューリビング翻訳、著作権 © 1996、2004、2015 ティンデール ハウス財団。Tyndale House Publishers, Inc. (イリノイ州キャロル ストリーム 60188) の許可により使用されています。

Sankō bunken AKJV - nintei (Kingū jēmusu) bājon KJV wa, Igirisu no kuraun no tokkyokenshadearu kenburijji yunibāshit